



日本基督教団 梅ヶ丘教会会報

ぶどうの木

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2025年 8月24日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL : 03-3414-5772
FAX : 03-3414-5778

第266号 2025年 9月号



『シャローム!』

牧師 広田叔弘

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。

マタイによる福音書 5章9節

ひとりの高校生を思い出します。彼女は明るくて快活。とても積極的でした。体育系の部活に所属しており、リーダーをしていました。年の離れた妹がいたためかもしれません。後輩の面倒見が良かった。卒業年度の修養会では、「東日本大震災で被災した人たちのために祈ろう」と、一同が集まった昼食の席で呼びかけました。彼女の祈りに一九〇人あまりの生徒と教員が心を合わせたのです。私は彼女に教会へ来ることを勧めました。しかし、言葉を濁して返事をすることはなかった。あるとき手紙をくれました。そこには、教会へ行けない理由が書いてありました。彼女は小学生のときに最愛の母親を亡くしています。お母さんは熱心なクリスチャンでした。教会で葬儀をしました。そしてその日から、「自分は教会が怖くなった」と言います。教会は主を賛美するところではなく、愛する母が遺体になっちゃったところ。葬りの場。彼女にとっては「怖いところ」になっちゃったのです。このときから彼女との

間で教会の話をすることはなくなりました。

しかし、その年のクリスマスです。彼女は教会に来ました。田舎から出て来たおばあちゃんと一緒に教会に来ました。驚く私に彼女は、とても安心した笑顔を向けてくれました。

信じる者たちにとって教会は安心の場です。しかし、必ずしもそうとは限らない。同じ空間であっても、人によっては意味が異なります。彼女はなぜ教会に来ることが出来たのか・・・心の傷みを乗り越えて母親が信じたものを信じたかったのかもしれませんが、いずれにしても大きな成長があったのでしよう。

平和。ヘブライ語でシャローム。神さまから与えられた命が、人間の中で喜びとなつて力強く満ちあふれる有様だと言います。「あなたにとって今の現実はどう見えているのだろうか」このことを思いやる事が出来たら、そしてその人が、自分から動き出すのを待つことが出来たら、それが私たちの間に平和をもたらす一歩になるのではないかと思います。第二次世界大戦が終結してから八〇年を迎えています。そして今も世界では戦争が続いています。せめて、隣人を思いやりたい。あなたが、あなたであることを大切にしたい。目の前にいるひとりを尊くして、互いの間に平和を作り出していききたいと願うのです。